

開会の辞

日中韓三国協力事務局主催「日中韓 FTA セミナー」

2013 年 6 月 18 日

中国威海・東山ホテル

日中韓三国協力事務局

申鳳吉（シン・ボンキル）事務局長

本日は、日中韓 FTA セミナーにご参加頂きまして、誠にありがとうございます。日中韓三国協力は、本
日ご参加頂いた皆様のご協力の賜物であります。

現在、日中韓三国の二国間関係は、政治的対立、歴史問題や領土問題、そしてナショナリズムによっ
て、決して順調とは言い難い状況です。しかし、この不安定な時代にも三国協力は着実に進められてい
ます。喜ばしいことに、今年 5 月には日中韓環境大臣会合が成功裏に開かれました。また、こうした難
局を打開するための解決法やビジョンの模索に向けた三国学術セミナーも開かれています。私たち事務
局も、日中韓ビジネスネットワーキングレセプションや日中韓三国防災机上演習を開催したほか、三国
の若者を対象にした交流事業に取り組んでいます。

三国協力はこれまでも紆余曲折を経てきました。2005 年から 2006 年までは日中韓首脳会議が開催
されず、低調な時期もありました。しかし、三国協力はその後、日中韓サミットの開催、三国間パート
ナーシップの確立、三国協力ビジョン 2020 の採択、三国協力事務局の開設など、急成長を遂げました。
三国協力の未来は、こうした「克服力」によってどのような困難も乗り越えられると、私は確信しています。
日中韓三国は地理的近接性、莫大な共通利益、そして分かち難い未来で結ばれています。私たちは
東アジアの平和と繁栄という新たな時代を切り開くほかにはないのです。困難の代わりに友情の種を植え、
協力の苗木を育てれば、やがて三国の間には絆が花咲かすことでしょう。

ご列席の皆様

日中韓 FTA は三国協力の「克服力」のあらわれです。そして、私たちには日中韓 FTA を推進すべき確
かな理由があります。

第 1 に、三国が域内生産ネットワークにおけるパートナーであるという歴然とした事実です。2012 年には
三国間における輸入額の合計が 7000 億ドル強に達しました。このような経済的相互依存関係にある
三国は、さらなる経済成長のために、自由で、開かれた、そしてルールに基づいた多国間貿易システムを
今以上に必要としているのです。三国は、日中韓 FTA によって 15 億人と 15 兆ドルに匹敵する GDP

を持った一つの共通市場を作り、世界第 3 位の経済圏として浮上することでしょう。

第 2 に、日中韓 FTA はアジア太平洋地域における経済統合の中核であるという点です。私たちはいま、モノやヒトの流れを活性化し、相互発展を促進するために、TPP や RCEP といった広域 FTA が形成される流れを目の当たりにしています。日中韓三国は、東アジアの経済大国として、日中韓 FTA 交渉を通じて各々の争点に対しコンセンサスを積み上げ、名実共に地域経済統合に寄与することでしょう。

最後に、日中韓 FTA が三国協力躍進の強固な基盤を築くという確固たる信念です。日中韓 FTA 交渉とは、経済という実用的な分野から三国が相互に信頼するメカニズムを構築する一つの過程なのです。また、日中韓 FTA は、持続可能な発展や人的交流といったさまざまな協力が展開する枠組みを提供するでしょう。言うなれば、日中韓 FTA は、三国間の平和と繁栄という壮大なビジョンを先導するポテンシャルを本質的に備えているのです。

ご列席の皆様

日中韓三国協力事務局は、設立以来、1 年と 9 カ月の間にさまざまな成功を収めてきました。事務局は三国協力の支援、研究、促進という任務を忠実に果たしてきました。さらには、具体的で実用的なプログラムを実施することで、三国協力の新たな地平を切り開いてきました。私たち事務局はすでに三国協力の不可欠な安定化装置としての役割を担っています。今後も、私たち事務局が三国協力にとって必要な組織であることを証明していきます。

私たち事務局は、日中韓 FTA が三国協力を支える一つの主要な柱であると常に評価してきましたし、FTA 成立を全面的に支持しています。本日のセミナーは私たちのこうした努力の一環でもあります。また、会議場の一角に日中韓 FTA の展示を準備致しました。ぜひご覧ください。

私は、事務局に対する三国政府、特に三国の FTA 交渉チームの惜しみない信頼及び支援に感謝致します。こうした支援がなければ、この時宜を得た意義深いセミナーの開催は不可能でした。また、ご協力頂いた威海市政府、チャイナデイリーの方々にも感謝致します。威海市は韓国の対中国投資において大きなシェアを占めています。私は、威海市が三国協力の最前線として発展することを願ってやみません。

最後になりましたが、このセミナーが日中韓 FTA の理解と支持を集め、ひいては三国のウィンウィンウインの関係構築の一助となるよう、ご列席の皆様の活発な議論を期待し、私の挨拶とさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。